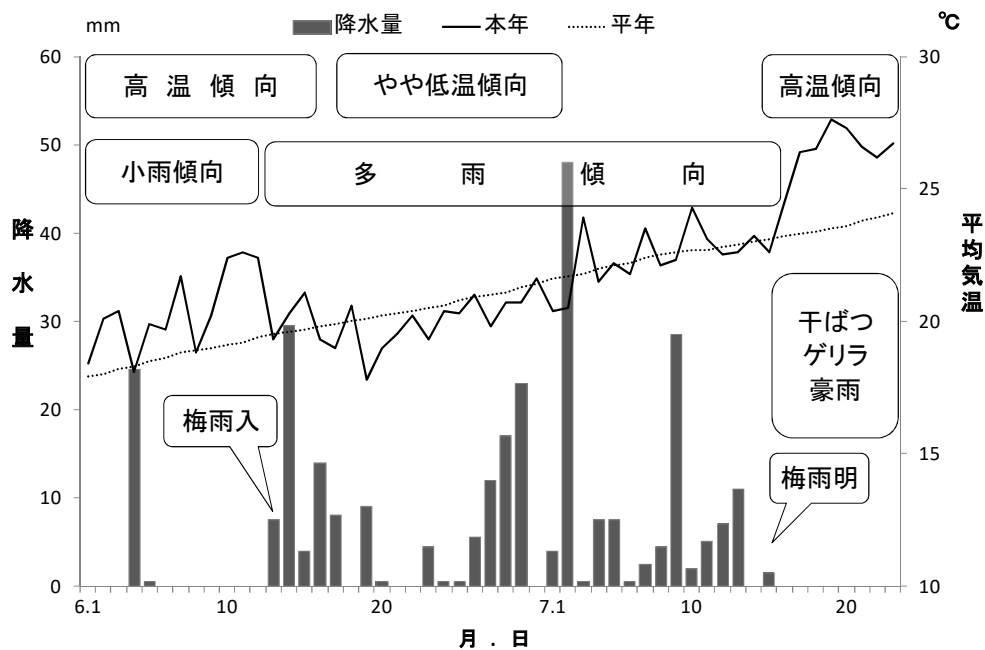


令和3年 作物技術普及情報 第13号

水稲・大豆の生育状況及び収穫開始予測について

1 気象状況

令和3年 気象経過(穂高アメダス 6月1日~7月24日)



7月16日の梅雨明け以降、気温の高い状況が続いています。降水量が少なく干ばつ傾向ですが、局地的には雷を伴う豪雨となる不安定な天候となっています。

7月22日気象庁発表の向こう1か月予想では、晴れの日が多く気温は平年並みから高いと予想されています(特に8月上旬は平年よりかなり高い)。また降水量も平年並みから多いと予想されています。

2 水稻の生育状況

定点圃場のコシヒカリは7月14日(平年より2日早)に幼穂形成期を迎えました。

幼穂形成期以降が高温のため、当初よりも生育が進んでいます。定点圃場のあきたこまちは7月24日(平年より4日早)に出穂期を迎えました。定点圃場のコシヒカリも8月5日頃に出穂期を迎えると予想されます。

以上から、生育進度は平年より4日程度進んでいると思われます。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合								
コシヒカリ 稚苗	幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期 の予測日		あきたこま ち 稚苗	幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期
本年	7月14日	7月21日	8月5日		本年	7月4日	7月11日	7月24日
平年	7月16日	7月23日	8月9日		平年	7月6日	7月13日	7月28日
平年差	平年より4日早				平年差	平年より4日早		

現地の5月初旬植の早生品種(あきたこまち、美山錦等)は、7月21~24日頃に出穂期を迎えました。5月初旬植のコシヒカリは7月末から出穂期を迎えると思われます。

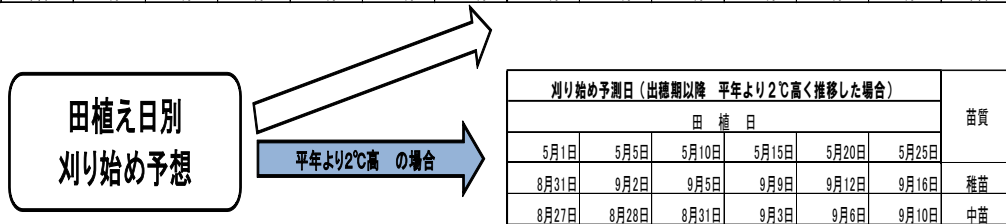
標高別、田植え時期別の生育状況の詳細は「松本地域における発育指数(DVI)による水稻生育予測」をご覧ください(ホームページに掲載いたします)。

3 水稻の刈り取り開始予測

刈り取り開始予測(平年版・平年より2℃高温版)の提供を開始します。「高温版」を目安にすれば、急な高温条件になっても対応可能と思われますので、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

標高別・移植日別の詳細は「水稻刈り始め予測(平年並み版、高温版)」をご覧ください(ホームページに掲載いたします)。

コシヒカリ 標高550m	苗質	推定出穂期						刈り始め予測日（出穂期以降 平年並みの気温）						苗質
		田 植 日						田 植 日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
稚苗		7月29日	7月30日	8月2日	8月5日	8月8日	8月11日	9月5日	9月8日	9月10日	9月14日	9月18日	9月22日	稚苗
中苗		7月25日	7月26日	7月29日	7月31日	8月3日	8月6日	9月1日	9月2日	9月5日	9月7日	9月11日	9月15日	中苗



【表は豊科定点圃場：標高540mの推定値（7月24日現在）です】

3 いもち病について

7月23日現在の、いもち病感染好適条件の判定結果では、7月6～16日にかけて、松本管内で感染好適条件が出現しています。

病害虫防除所からも、いもち病に関する発生予察注意報が7月16日付で出されました。

7月16日（梅雨明け）以降は、降雨も少なく高温で推移しているため、発生が多いという情報は入っていませんが、苗箱施薬の効果が低下する時期になっているため、圃場を観察していただき、発生状況によっては防除対策を講じてください。

4 斑点米カメムシ類について

現地からカメムシの発生が多いという情報が入っています。以下の点にご留意いただき、防除の徹底をお願いいたします。

- (1) 本田防除が最も重要です。散布適期は出穂10日後です。粒剤は効果の発現まで時間がかかるので、出穂7日後を目安に散布してください。

この防除でアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の本田定着及び幼虫の増加を防止し、アカスジカスミカメの成虫の本田侵入を防止します。

- (2) 斑点米カメムシ類は、稲の出穂以前は畦畔や休耕田等で生育・増殖します。畦畔の草刈はすでに実施されていると思いますが、出穂期以降の草刈は水田にカメムシを追い込むので避けてください。

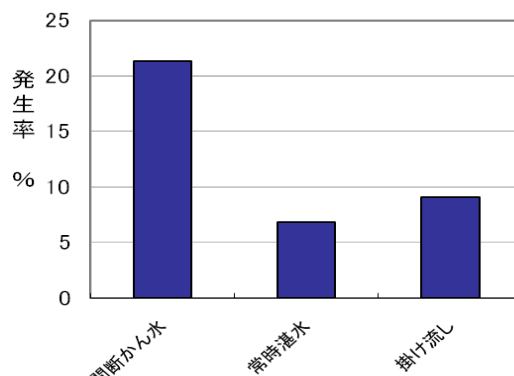
5 高温登熟障害対策について

向こう1ヶ月の気温は「平年並み～高い」と予報されており、今年も高温登熟障害対策に注意はらう必要があります。

これからのポイントは「出穂前後3週間の湛水」です。出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態としてください。

水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しをご検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)

注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします。

6 大豆の生育状況と干ばつ対策について

梅雨明け後も、午後に局地的な大雨となる事が多く、小麦後の大豆の播種作業は大幅に遅れました。

このため管内の大豆は、6月播種：6～7葉位、7月上旬播：3～4葉位、7月中旬播：1～2葉位、7月下旬播：出芽始め～初生葉位・・・と、播種時期により生育の差が大きくなっています。

また、局地的な降雨はありますが、高温で降雨がないため、全体として干ばつ傾向となっています。

7月27～28日以外は、まとまった降雨が期待できない状況なので大豆の葉が反転し始めたり、土壤表面が著しく乾燥してひびが入り始めた場合は、以下の点にご留意の上、かん水を実施いただくよう、お願いいたします。

- 1 かん水は、ほ場の一部で上位葉の反転が始まったら行う。
- 2 かん水は、葉数が5葉以上に生育した圃場で行う（葉数が少なく生育量が不十分の場合、かん水による湿害の恐れがあるので、生育が進んでからかん水する）。
- 3 かん水は用水が十分にあり、これまでに茎疫病等の立枯れ性病害が発生していない圃場で行う。
- 4 かん水にあたっては、ほ場周囲の額縁明渠や補助明渠、大豆の畦間等を活用し、水が速やかに圃場に行きわたるように行う。
- 5 大量にかん水して、圃場全体が滞水した場合は、茎疫病の発生を助長することがある。このため圃場の3分の2程度まで水が入ったら水を止め、滞水しないようにする。
- 6 かん水は、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水する。